



# NWS通信

Nurse(看護)・Wellbing(福祉)・Special(専門)

第 72 号

平成26年3月1日

発 行 所

駒沢看護保育福祉専門学校

岩見沢市9条西3丁目 ☎ 068-0029

T E L (0126) 25-0300番

印刷所 KK 組合 印刷



駒沢看護保育福祉専門学校校長

## 加勢道男

我国の歴史を刻み、私達の生活特に精神の支えになつていた一つに「いろは歌」があると思います。平安の時代よりとにかく「伊呂波シ」の47文字は、生活活動の隅々に至り使はれていました。ひらがなも書道のひらがな書きも「いろはにシ」です。また、「いろは」は、手習いの初めに習うところから「物事の初步・基本など」の意味に使用されています。じや、その「内容は如何に」と尋ねたら、どう回答してくれるでしょうか。残念ながら、私の期待は叶えられないと思います。10年前に、文芸春秋で「失われる日本語」を特集し、私達の生活信条の変遷と「心の力」欠如を関連つけて、「言霊」の世界を語っていた。私自身、常日頃中々感情の起伏激しく、言動で多くの方に

困惑させているので、一番耳の痛いところですが少々語りたいところです。

昭和の終わり頃まで、葬儀の時に形だけですが「五色の旗」に「諸行無常、是生滅法、生滅々已、寂滅為樂」と書いていました。その意味は、仏法の話を語る時に踏まえていかければならない「無常と縁起」というお釈迦さまの世界観であり人生觀です。私達が生きるには、理屈は要らないのです。まず、「すべての存在は、常に移り変わっている」「その存在は、さまざまな関わりを頂いている。いや、お世話になつて存在出来ている」「二つの柱が、生活(=生きるとは、活かし活かされる)する必要条件であるからです。私達が子どもたる頃、よく「勉強します。勉強します」と八百屋さんなどから、お店の前を通る人々に、

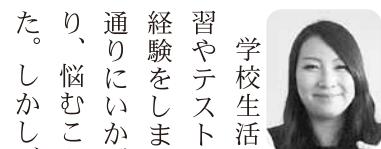
呼びかけていました。「はたらく」とことは、「を」を真中にいれることで「傍を樂く」になると言われていた。勉強や労働は、自分をさて置き、家族や地域や社会を勘定に必ず加えていたのです。また、産声を上げた私達は、「生者必滅、会者定離」を繰り返す社会を生きるので「死を見つめて、生きる智慧を学ぶ」心掛けを抱いて生きることです。

書いた漢文は、涅槃經の「無常の偈」というもので、意訳して「色は匂へど散りぬるを我の話を語る時に踏まえていなければならぬ「無常と縁起」というお釈迦さまの世界観であり人生觀です。私達が生きるには、理屈は要らないのです。まず、「すべての存在は、常に移り変わっている」「その存在は、さまざまな関わりを頂いている。いや、お世話になつて存在出来ている」「二つの柱が、生活(=生きるとは、活かし活かされる)する必要条件であるからです。私達が子どもたる頃、よく「勉強します。勉強します」と八百屋さんなどから、お店の前を通る人々に、

ある標語に「私と同じ考え方で、間違えのはじまり」とあります。確かに、「十人十色」で人それぞれ思考力も違うあります。これを思うに、自分とは異なる存在との関わり、繋がりを如何にするべきか、その関わり方や態度をどうしなければならないかは、この世の生きる私達の重要な課題です。それで、「阿吽の呼吸」が説かれます。寺院の入り口に「仁王像」が安置されています。一方は口を開けて、一方が世誰ぞ常ならぬ、有為の奥山今日越えて浅き夢見じ醉ひもせず」(この世には何時までも変わらないで存在するものはない。この世が無常であることを受け止めて自覚を失つてならない)が使用された。それが、70年前に「あいうえお」のひらがな表に変わりました。ひらがなの配置は、「あ：ん」の50音が羅列されているものです。あいうえおの表に連させ「人生を生きる」考え方を求めたいと思います。まさに、私達が生きるには、関わらよいのでないでしょうか。

らよいのでないでしょうか。あるが、間違えのはじまり」とあります。確かに、「十人十色」で人それぞれ思考力も違うあります。これを思うに、自分とは異なる存在との関わり、繋がりを如何にするべきか、その関わり方や態度をどうしなければならないかは、この世の生きる私達の重要な課題です。それで、「阿吽の呼吸」が説かれます。寺院の入り口に「仁王像」が安置されています。一方は口を開けて、一方が世誰ぞ常ならぬ、有為の奥山今日越えて浅き夢見じ醉ひもせず」(この世には何時までも変わらないで存在するものはない。この世が無常であることを受け止めて自覚を失つてならない)が使用された。それが、70年前に「あいうえお」の表に連させ「人生を生きる」考え方を求めたいと思います。まさに、私達が生きるには、関わらよいのでないでしょうか。

# 保育専修科

保育専修科2期生  
江藤 真希保育専修科2期生  
小田嶋令未

学校生活を振り返ると、実習やテスト、学友会等様々な経験をしました。時には思い通りにいかず難しさを感じたり、悩むことも沢山ありました。しかし、そのような経験

保育専修科2期生  
北野 横子

三十六年間続いてきた歴史ある保育科が、閉科することをとても残念に思います。

入学してから3年が経ち、今日卒業を迎えます。3年間、実習や授業の中で保育についての知識、技術を学び、実践を通して保育者としての役割や、保育の大切さを改めて感じじることができました。卒業後も、初心を忘れず日々努力し、成長していきたいと強く思っています。

保育科が閉科してしまうことは、とても寂しく思います。が、保育科最後の卒業生として誇りを持ち、卒業していきたいと思います。

保育科が閉科してしまったと共に、自分の自信や糧となりました。

また、保

保育専修科2期生  
小西 瑞希

「継続は力なり」という言葉

の通り、この三年間を振り返ると、失敗を繰り返し経験を積み重ねながら成長してきました。

四月からは「保育のプロ」としての自覚と責任を持ち、一生懸命頑張っていきます。

保育専修科2期生  
野口はるか

歴史ある保育科が無くなってしまう今、とても寂しく、残念に思います。この学校で学んできた保育に関する知識や技術を精一杯に發揮することを約束し、誇りを持つて卒業したいと思います。

閉科にあたっては、寂しい

気持ちと残念という気持ちがあります。しかし、これからも看護科には、駒沢の伝統を受け継ぎ、大切にしていくことを感謝しています。

しかし、保育科が閉科しても保育科の卒業生であるとう誇りと、駒沢で学んだことを糧にし、卒業後は、資格を活かして社会や地域に貢献できるよう、邁進していきたいと思います。

閉科については、高校も駒岩見沢だったため、一度に二つも母校が無くなってしまふことはとても残念です。でも、この学校で学んだ最後の三年はとても充実した一年でした。そこで、胸を張って卒業生として、胸を張って卒業し、社会の中で活躍していくたいと思います。

幼稚園教諭を取得することができ、嬉しく思います。

保育専修科2期生  
横山みづき

私は、この学校で保育や福祉の勉強を三年間してきましたが、その中で社会勉強や人間性なども育てて頂きました。辛く、挫けそうになつたこともありましたが、クラスのみんなと支え合い、成長してきました。

私は、保育科最後の卒業生として卒業します。幼い頃から高校も駒岩見沢だったので、幼稚園教諭を取得することができ、嬉しく思います。

三年間、オペレッタ、実習など様々な事を学んできた保育科が閉科してしまうのは、とても寂しく思います。これから駒沢看護保育福祉専門学校保育科の学生であつたことを誇りに、就職した先でも一生懸命、頑張っていきたいと思います。



### 卒業にあたり

17期生二学年 梅津 友香

今回、駒沢看護保育福祉専門学校、看護第2科が閉科となるにあたり、私たち17期生が2科最後の学生になります。後輩がいないのはさみしいですが、その分3年課程の看護第1科の皆さん、今後もこの学校の看護科を盛り上げていつてくれるここと信じ

# 看護第一科

ています。

私たち2科の学生は、准看護師過程を経てから看護師を目指し、この駒沢に進学しました。年齢や職歴も様々な私たちは、看護師になるという同じ目標に向かい、2年間共に頑張ってきました。異なる面が多い37名ですが、この2年間でお互いを知り、臨地実習などを通して絆を深めてきました。臨地実習は机上の勉強とは違い、実際に医療の現場で患者さんと関わりながら看護を実践するため、毎日が緊張と不安との戦いででした。しかし共に頑張っている仲間と励まし合い、助け合っていく中で、仲間の存在の大切さに気付くことができ、看護はチームワークが大切なのだと改めて学ぶことができました。実習中は疲れぬ夜を過ごしたことも多く、挫けそうになることもありますが、共に悩み、共に前に進

んでくれる仲間の存在があつたからこそ乗り越えることができたと感じています。

私たちは今、この学校で学んだ2年間の集大成である看護師国家試験に向け、37名全員合格を目指して頑張っています。試験直前となり不安も大きいのですが、悔いの残ら

うした方が良かったのではないか、とかこんな方法もあつたのではないか、など新しい発見が多くありました。また、理論を用いることで、自分の

その後の研究発表では、クラスメートの行なった看護について聞くことで、共感することも多く、みんなで情報を共有する事ができ、学びも深まつたと思います。今後、臨

### 看護研究を終えて

17期生二学年 永田 智保

今年度、2年生となり教科書で学んだことや技術演習、看護過程などの学びを基に、臨地実習に臨みました。患者様と直接かかわりながらこれまでに学習してきた知識・技術をもとに患者様のニードや個別性を考慮して疾病の回復のために看護計画を立案し、日々実践していきました。看護研究は、7クールの実習を終え、自分自身が行つた看護について改めて振り返り、看護観を明確にする大切な場であり、看護学生としての学



門学校、看護第2科が閉科となるにあたり、私たち17期生が2科最後の学生になります。後輩がいないのはさみしいですが、その分3年課程の看護第1科の皆さん、今後もこの学校の看護科を盛り上げていつてくれるここと信じ

私たち2科の学生は、准看護師過程を経てから看護師を目指し、この駒沢に進学しました。年齢や職歴も様々な私たちは、看護師になるという同じ目標に向かい、2年間共に頑張ってきました。異なる面が多い37名ですが、この2年間でお互いを知り、臨地実習などを通して絆を深めてきました。臨地実習は机上の勉強とは違い、実際に医療の現場で患者さんと関わりながら看護を実践するため、毎日が緊張と不安との戦いででした。

しかし共に頑張っている仲間と励まし合い、助け合っていく中で、仲間の存在の大切さに気付くことができ、看護はチームワークが大切なのだと改めて学ぶことができました。実習中は疲れぬ夜を過ごしたことも多く、挫けそうになることもありますが、共に悩み、共に前に進

うした方が良かったのではないか、とかこんな方法もあつたのではないか、など新しい発見が多くありました。また、理論を用いることで、自分の

その後の研究発表では、クラスメートの行なった看護について聞くことで、共感することも多く、みんなで情報を共有する事ができ、学びも深まつたと思います。今後、臨床でも看護研究は必要な取り組みです。今回の学びを活かして、取り組んでいきたいと思います。



### 看護師を目指して

5期生一学年A組 佐藤悠稀菜

看護師を目指し入学して、一年が経とうとしている。この一年間はテストに追われ、看護師になるための基礎を学習してきた。テスト範囲の広さに苦戦しながら一つずつ乗り越えることができた。十月には無事に戴帽式を迎えることができた。ナース

# 看護第一科

## 私の学校生活

5期生一学年B組 青木 千香

昨年の四月に入学し、もうすぐ一年になります。入学当

キャップを戴いた時は、夢に一步近づけた気がした。

間もなくコミュニケーションをとることが中心の三日間の基礎看護学実習Iaが始まつた。患者さんとコミュニケーションをとることは想像以上に難しく、患者さんや指導者、先生に助けてもらながら初めての実習は終了した。基礎看護学実習Ibでは、患者さん一人を受け持たせて頂き、少し日常生活援助を実施した。学内実習で練習しているようにはいかず、戸惑う場面も多々あつた。二度の実習でコミュニケーションの中から患者さんの情報収集ができることを実感した。学校での授業も全て積み重ねが大切であると改めて感じることができた。

二月には基礎看護学実習IIが始まる。事前に学習し知識を深め、内容の濃い実習とし看護者の視点での観察力を高めていきたい。五期生全員で基礎看護学実習IIやテストを乗り越えていきたい。

5期生一学年B組 青木 千香

昨年の四月に入学し、もうすぐ一年になります。入学当

についていけるのか不安の気持ちが強かつたです。実際に毎日が勉強で、ついていくのに必死です。また、同じ気持ちで頑張っている仲間が支えてくれるので、大変なことも乗り越えられたと感じています。

昨年の十月、私たちは戴帽式で誓いの言葉を考え、真新しいユニフォーム

を戴きました。とても新鮮な気持ちになり、責任感とともに、改めて看護師になると決意しました。

ここまで学校生活を継続することが出来ているのは、両親や一生懸命に私たちに勉強を教えてくださつていてくれる先生方や、いつも支えてくれる仲間がいるからです。当たり前のようと思えることが、当たり前ではなく、これからも感謝の気持ちを忘れ



や看護師としての姿勢、態度を学ぶことができました。十  
月には、一人の患者さんを  
受け持ち、看護記録や患者さんとのコミュニケーションを行  
い、必要な情報を選択する  
には難しかつたです。担当の  
先生から、的確なアドバイス  
があつたおかげで、看護課題  
を理解することが出来たと思  
います。患者さんを受け持ち、  
援助を行つた際には、「ありが  
とう」と言われ、看護師の仕事  
にやりがいを感じました。

ここまで学校生活を継続する  
ことが出来ているのは、両親や  
一生懸命に私たちに勉強を教  
えてくれる先生方や、いつも支  
えてくれる仲間がいるからです。  
当たり前のようと思えることが、  
当たり前ではなく、これからも感謝  
の気持ちを忘れないでください。

今回の実習では、個別性の  
ある看護展開について学びました。  
それには一年生からの基礎看  
護学実習の積み重ねが重要で  
あるということを感じました。



### 成人看護学実習を終えて

4期生二学年 田村 亮太

や看護師としての姿勢、態度  
を学ぶことができました。十  
月には、一人の患者さんを  
受け持ち、看護記録や患者さん  
とのコミュニケーションを行  
い、必要な情報を選択する  
には難しかつたです。担当の  
先生から、的確なアドバイス  
があつたおかげで、看護課題  
を理解することが出来たと思  
います。患者さんを受け持ち、  
援助を行つた際には、「ありが  
とう」と言われ、看護師の仕事  
にやりがいを感じました。

ここまで学校生活を継続する  
ことが出来ているのは、両親や  
一生懸命に私たちに勉強を教  
えてくれる先生方や、いつも支  
えてくれる仲間がいるからです。  
当たり前のようと思えることが、  
当たり前ではなく、これからも感謝  
の気持ちを忘れないでください。

考えていくことが必要でした。このことを考えながら日々の振り返りや計画立案を実施していくことで、患者の個別性が見え、個別性のある看護展開ができるようになりました。三年生になると、四月から母性や小児、在宅など領域別の実習が始まります。様々な患者に対応した看護過程が重要となってきます。領域別実習でも今回学んだ個別性のあらる看護展開を実施していくた



三年間を振り返つて

3期生三学年 横尾祐衣

めに、それぞれの患者の特徴について、学びを深めていきたいと思います。

リスクが高い患者でした。看護援助は安全面を特に考慮し、患者自身の自立心も損なわないような看護が必要でした。転倒のリスクを考えた教科書通りの援助方法ではなく、患者ができる範囲や自身で実施したい部分をどのように安全に患者自身が実施できるかを



実習で受け持たせて頂いた  
患者さんと上手くコミュニケーション

技術練習や実習など、ついていくのがやつとで、気がついたら卒業が近づいていたというのが実感です。看護師への道のりは本当に険しいもので、あると実感した短くも濃厚な三年間でした。

を申し上げます。今は受け持つた患者さんから頂いた温かい感謝の言葉や心配していく患者さんが回復していく姿、そして、その笑顔が素晴らしい記憶となつて、私たちを勇気づけてくれます。

小さい頃からの夢だった看護師を目指し無事看護学校に入学することができ、希望に胸を膨らませ入学式を迎えたのが、まるで昨日のように思い出されます。入学後は次々

合い、本音をぶつけ合えるク  
ラスメートの存在、厳しくも  
熱心に指導して頂いた病院、  
施設の指導者の方々をはじめ  
多くの先生方の支えで何とか  
乗り越えることができました。

ケーションがとれず、良かれと思つて行つたことが患者さ

たちは学校を巣  
メートはそれぞ  
れ希望する病院  
に看護師として  
就職し、私は大  
学看護学部3年  
へ編入する道を  
選びました。こ  
れまで未熟な自  
分達を育ててくれ  
れた先生方への  
感謝の気持ちを  
忘れず、未来へ  
向かって希望を

# 学友会活動紹介

4期生二学年  
遠藤

**学友会活動を振り返つて**

4期生二学年 遠藤 温

私達学友会は、学生間の親睦と心身の健全な育成を目指し、学校生活の充実向上を図ることを目的とし、活動している。

今年度の活動では、特に九

今年度の活動では、特に九月に実施したスポーツ交流会の運営で、種目の数やチーム数などを重点的に考え準備しました。その結果、試合までの待ち時間が長くなつた人や、競技が過密になつてしまつた人もいなかつた。また、学年混合でチーム編成をしたことにより、他学年との交流をより一層深めることができた。学友会全体で協力して運営したことで、より良い行事となり達成感があつた。

どの学年も忙しい学校生活を過ごしているが、その中にも充実感を味わえるような、また気分転換となるような行事の運営ができたと考えている。今後の活動としては、三年生を送る予餞会がある。三年生と交流できる最後の機会であるため、三年生にとつて卒業前、最後の思い出となるよう学友会で協力し、より良い会にしていきたいと考えている。



持つて歩んでいきたいと思ひます。

先

生

三



### 増加傾向の男性看護師

看護第一科 朝倉あつ子